

2020年度助成研究サマリー紹介①

*研究者の肩書は報告書提出時のものであり、現在とは異なることがあります。
*継続研究は2年間の研究です。

常勤研究者の部

メタファーの自動生成による意味的な重ね合わせのあるキャッチコピー生成器の構築



狩野 芳伸

静岡大学
情報学部
准教授

梅村 奏子(静岡大学大学院 修士課程2年)

近年、AIによってキャッチコピーを自動生成するシステムを見かけることが多くなった。商用利用されているものから一種のジョークツールとして公開されているものまで幅広く存在するが、多くのシステムが人間のキャッチコピー作成の支援システムの側面が強く、最終的に良いものを人が選択するという運用がなされている。そのため、良いキャッチコピーとは何かについて追究し、その生成を目指したもののはあまり見られない。そこで、本研究では良いキャッチコピーの定義から行った。

キャッチコピーは企業と消費者の間に成立するコミュニケーション手段の1つであることから、企業側から発信したメッセージが消費者側の記憶に残ることが重要である。消費者の記憶に残りやすい良いキャッチコピーに共通する条件として、修辞技法を用いることと、意味の重ね合わせを用いることの2つが挙げられる。以上から、「意味の重ね合わせを含み、修辞技法を用いて消費者の記憶に残りやすくしたキャッチコピー」を良いキャッチコピーと定義した。

この仮定をもとに、修辞技法の1つであり、1つの事柄を別の事柄で例えることにより成立する比喩表現を用いることで、良いキャッチコピーが生成できるのではないかと考え、概念メタファー理論を踏まえた比喩生成器とそれを用いたキャッチコ

ピー生成器を構築した。また、比喩の種類や先行研究における生成手法から、キャッチコピー生成と相性の良い比喩表現として動詞メタファーを選択し、概念メタファー理論に基づく比喩表現生成器を構築した。比喩表現の生成に際しては、抽象度の異なる2つの概念領域間の写像である概念メタファーを推定するために抽象度推定器の構築を行い、学習データ作成のための抽象度付与実験を行った。また、意味の重ね合わせを表現するために多義語名詞を用いることを提案し、動詞メタファーの動詞部分の単語が名詞部分の複数語義で使われるような表現を生成するために、多義語クラスターを作成して多義名詞の語義ごとの共起単語の分類を行った。

提案手法を用いて生成したキャッチコピーについて、抽象度推定器と多義語クラスターを用いない状態で生成したキャッチコピーをベースラインとして、評価者3名による評価実験を行った。その結果、ほとんどの評価軸において3名の平均値でベースラインを上回っており、中でも動詞メタファーを含むキャッチコピーが上位に入るなど良いキャッチコピーとして評価された。また、キャッチコピーのコンテストである宣伝会議賞で一次審査を通過し人間のプロのコピーライターから認められるようなものを提案手法によって生成できることを示した。一方、抽象度推定器と多義語クラスターの有効性や評価手法の確立に関しては、さらなる調査と研究を進める必要性があると考えられる。

以上より、課題点も幾つかあるものの、本研究においてキャッチコピーを比喩表現に用いることが有効であるということを示すことができた。